

2022 年度 4 月オンライン研修・講習会のお知らせ

一般社団法人 日本音楽療法学会
研修・講習委員会

4 月オンライン研修・講習会は

4 月 28 日 (木) 正午～6 月 13 日 (月) 午後 11 時 59 分の約 1 ヶ月半視聴いただけます。

※動画の視聴申込は、**4 月 28 日 (木) 正午**よりマイページにて行ってください。

◆ 4 月オンライン研修・講習会の配信内容

【講演 1】

タイトル	臨床心理学の新しい潮流： “マインドフルネス”と“アクセプタンス”のアプローチ
講師名	早稲田大学人間科学学術院 准教授 大月 友 (オオツキ トム)
主な内容紹介	臨床心理学における行動論的（認知行動論的）アプローチでは、この 20 年で心理的問題の理解やその支援の考え方が進化している。たとえば、1990 年台では、さまざまなメンタルヘルス上の問題に対して、疾患ごとにモデル化が進められ、治療マニュアルが開発されていた。特に、各疾患の認知の“内容”に焦点を当てた介入が行われ、そのエビデンスが構築されていった。一方、2000 年台以降、診断横断的（超診断的）なメンタルヘルスの理解モデルも構築されるようになり、そこでは認知の“内容”ではなくその“機能”をより焦点化するようになっている。こうした流れの中で、マインドフルネスやアクセプタンスといったアプローチが台頭している。本研修では、このような歴史的背景とともに、こうした新しいアプローチの特徴について概説していく。
プロフィール	資格：公認心理師・臨床心理士・認知行動療法師・認知行動療法スーパーバイザー・博士（臨床心理学） 経歴：2008 年早稲田大学人間科学学術院助教、2010 年専任講師、2013 年准教授となり現在にいたる。現在、保健医療分野、教育分野、産業・労働分野において、心理的支援の臨床実践と研究に取り組んでいる。専門は、臨床行動分析、アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）、認知行動療法。

【講演 2】

タイトル	第1回日野原賞受賞記念特別講演： 音楽的な対話が「注意」という認知機能にもたらす影響
講師名	京都大学大学院医学研究科 客員研究員， 白菊園病院リハビリテーション科 音楽療法士 上羽（糟谷） 由香（ウエバ カスヤ ユカ）
主な内容紹介	「注意」という機能は，認知機能の根幹をなす基本的機能であり，児童の場合，認知発達全般に重要な役割を果たします。よって，この機能に課題がある場合，学習や認知発達だけでなく，コミュニケーション能力や社会性にも影響がおよぶとされます。本講座では，セラピストとクライアント間で音楽的な対話がなされる音楽療法の場において，注意がどう働き，どのような良好な変化が期待できるのか，昨秋日野原賞をいただきました拙論文「The Effect of Music Intervention on Attention in Children: Experimental Evidence (Frontiers in Neuroscience, 2020; 音楽介入が児童の注意機能にもたらす影響: 実験的証拠)」で発表した実験の取り組みと得られた知見を手掛かりに，考察したいと思います。私が臨床と研究の往復過程で得てきた知見が，対象者理解を深める一助となれば幸いです。
プロフィール	白菊園病院リハビリテーション科音楽療法士，京都大学大学院医学研究科客員研究員。Shenandoah 大学大学院にて音楽療法修士号，京都大学大学院にて人間健康科学博士号取得。著書「自閉症と音楽療法」(成人病と生活習慣病 46 巻 2 号)，「児童を対象とした音楽療法」(『音楽知覚認知ハンドブック』)，「神経学的音楽療法ハンドブック」(監訳)，「音楽療法入門 (第 3 版)」(共訳)等。米国公認音楽療法士。日本音楽療法学会認定音楽療法士，同学会代議員，同学会国際交流委員会委員長。ASD 高度専門支援人材養成コース第 3 期生。

【講演 3】

タイトル	<p>コミュニケーション・ミュージカルティ理論への手引き —原初的コミュニケーション・ツールとしての音楽—</p>
講師名	<p>東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科 専任講師 平野 夏子 (ヒラノ ナツコ)</p>
主な内容紹介	<p>言語によるコミュニケーションが困難な人が「なぜか音楽だと反応する」と、他職種から不思議がられた経験のある人は多いのではないだろうか。「音楽ってすごいですね！」と言われるのは嬉しいが、何故すごいのか？</p> <p>その問いに答えてくれそうなのが、マロックとトレヴァーセンが提唱した「コミュニケーション・ミュージカルティ理論」である。新生児と母親の前言語的なやり取りに見られる「音楽性」に着目し、音楽の起源に関する最新の研究成果を踏まえながら、人間の音楽性とコミュニケーション能力との深い繋がりを示唆した『絆の音楽性—つながりの基盤を求めて—』(2018年、音楽之友社)は、日本の新生児医療の現場や音楽教育の分野にも少なからぬ影響をもたらした。今、音楽療法士として知っておくべき「コミュニケーション・ミュージカルティ理論」について、わかりやすく概説する。また、今回の講座のために、障がい児分野の第一人者である高山仁先生より貴重なセッション動画をご提供いただいた。高山先生へのインタビュー動画と合わせてご覧いただき、私たち音楽療法士の日々の実践に、コミュニケーション・ミュージカルティ理論がどのように関わっているのかを考えてみたい。</p>
プロフィール	<p>東京藝術大学音楽学部楽理科卒。在学中より障害児領域で音楽療法実践を始める。1998年より国際音楽療法専門学院の非常勤講師として「民族音楽学」「日本歌謡史」などを担当。その後、日本福祉教育専門学校社会福祉学科音楽療法コース専任講師を経て、現在、東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科に実務家教員として勤務。日本音楽療法学会認定音楽療法士。東光会東所沢病院リハビリテーション科非常勤音楽療法士。</p>

※講座内容についてのご質問は受け付けておりません。